
蝶子、フライハイ。

雪村マイカ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

蝶子、フライハイ。

【Nコード】

N9192Q

【作者名】

雪村マイカ

【あらすじ】

何もかもを失ったキャバクラ嬢・蝶子。

彼女が自ら命を絶つ前の、僅かな時間を描く。

金は腐らす程稼いだ。

綺麗なドレスもジュエリーも可愛い靴や鞆も、クロゼットに収まり切らないくらい持っている。

周りの男は、私の言う事なら何でも聞いてくれる。

何かあった時に助け合い、支え合い、心から信頼出来る友達も沢山いる。

これがつい昨日まで、当たり前だった日常。

しかしたった一つの誤解で、今日私は全てを失った。

何度「違う」と言っても、誰も信じてくれない。

今まで私が積み重ねてきた物は全て、見てくれだけの軽い物だったのか。

私は私なりに、周りとの関係をしっかりと築いてきたつもりだったのに。

誰も分かってくれない敵だらけなこの状況に、「私」こと「美崎蝶子」22歳が死を決意したのはつい数十分前の事。

家を飛び出した私は、ありったけの涙を付け睫毛特盛の瞳からこぼして、ただひたすら走り続けた。

散々走って辿り着いたのは、王道である高層ビルの屋上。

どうせ死ぬなら名前の如く、飛び降り自殺が妥当だろう。

大都会には大きな崖はない為、このビルが私の晴れ舞台に選ばれたという訳だ。

せっかくだから死ぬ前に昔を振り返ってみようと思った私は、一番

高い所まで登ってゆつくりと瞳を閉じた。

小さい頃から好きだったのは、絵を描く事、ぬいぐるみ、キラキラと光る物に、歌を歌う事。

明るくてそれなりに友達もいて、楽しかった。

だけど気まぐれで、1人になりたい時は友達や母親すら寄せ付けなかった。

思えばこの時から、私の人生は良い物にならない事は決まっていたのかも知れない。

中学高校は、散々気持ち悪いだの不細工だの言われ続けて、精神が崩壊しかけた。

昨日まで仲良くしてくれていた子が、手の平返したように冷たくなったりして。

明るかった性格も、イジメのせいで段々と歪んで、大人しく陰気臭ささえ漂うようになっていった。

どうしてもイジメた奴らを見返したかった私は、整形手術をし化粧を覚え、ついに美しい顔と体を手に入れたの。

それが新たな破滅への序章とも知らずに。

キャバクラで働きだしてから、ナンバーワンになるまでは良かった。

仲間にも恵まれて、指名もそこそこされるようになって、思い通りにならない事なんてなかった。

幸運の女神が、ずっと私に微笑みかけてくれていたの。

だけど今思えば、上り詰めたと同時に、色々な人を傷付け苦しめて

きた。

嘘や騙しは当たり前。

時に仲間の大切な人を奪ったり、古い傷をえぐり出すような事を平気で言ったり。

とにかく自分がのし上がる為ならと、数え切れない程の事をやった。重犯こそ犯してはいらないものの、行いの質は本当に悪かったと思う。謙虚で優しい心は忘れちゃ駄目よ、って昔おばあちゃんが教えてくれたのに、あの頃の私はすっかり忘れていたんだ。

さっきまでは「何だよ」って思っていたけど、考えてみれば悪いのは全部私だった。

ただ全部自分に跳ね返って来ただけの話だ。

因果応報とは、どこの誰だか知らないが上手い事言ったじゃないか。

それに気が付いた瞬間、再び私の瞳から溢れ出す涙。

心の中で何度も何度もごめんなさいと叫ぶけど、届く筈なんてなくて。

もう二度と取り返す事の出来ない信頼と愛情に、ただただ私は後悔するだけだった。

だけど死ぬ覚悟は、さっきより固まったと思う。

こんな事口に出したら、暑苦しい説教屋が寄って来るだろうから言わないでおくけど。

やり直しのきかない人生なんてない。なんて言葉は信じない。

無責任な奇麗事より残酷なものを、私は知らないから。

これが22年の人生で唯一得た事だなんて、どれだけ悲しい人生だったんだろう。

気付けばビルの下には大勢の人が叫んでる。

降りて来いとか早まるなとか、今の私にはそんな言葉すら歓声に聞

こえた。

もっと見て、私の飛び立つ姿を。

本物の蝶も怖気づくくらい、華麗に舞ってみせるから。

バイバイ、この歪んだ世界。

(後書き)

初投稿です。

拙いですが何とか書き上げました；
ちょっと暗かったかな…。

最後まで読んで下さってありがとうございます☆

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9192q/>

蝶子、フライハイ。

2011年4月3日14時20分発行